

令和7年度学校評価

1 本年度の学校評価

本年度の重点目標		①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋がられるよう、教科指導やICT機器の有効活用などの研修・研鑽を通した授業の実践に努める。 ②生徒が自信を深められるように、個別支援や集団生活指導の環境の改善に努める。特に、教育相談委員会の活性化、外部人材（外国人生徒教育支援員、SC・SSWなど）や外部機関との連携をさらに深め、個に応じた支援の工夫を図る。 ③生徒への適切な指導・支援を教職員が一体となって対応できるように、情報共有を図る機会としてアクティブミーティングを積極的に導入する。	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習環境整備 (総務部)	防災・減災に関する計画と工夫 eメッセージ活用 の充実 式典内容の充実	・防災訓練の内容の充実 ・eメッセージの登録率の向上 ・式典の充実	・防災訓練の後に防災学習として、映像を見たり現在行っている防災について考えたりする時間をとる。 ・新入生には入学式、在校生には面談週間を使って生徒と保護者の登録を促し、保護者会で再度確認する。 ・卒業式だけでなく、始業式や終業式で校歌を歌うよう呼びかけ式典をより良いものにする。
学習指導 (教務部)	生徒の学びに対する興味・関心を向上させ、確かな学力を身につけさせる 日本語学習への意識付け	・授業内容の定着 ・きめ細やかな指導の徹底 ・日本語学習支援	・スモールステップの目標設定による達成感を感じさせる指導を継続する。 ・成績不振者に対して、学習会の設定や始業前や業後の個別指導をより充実させる。 ・担任・教務部が連携して、校内実施の日本語教室へ積極的に参加するよう声がけする。また、JLPTの受検を促し、そのサポートをする。
生徒指導 (生徒指導部)	主体的な基本的生活習慣の確立に向けた取り組み 人としての在り方・生き方に関する学びの充実	・主体性を高められる生活指導の実践 ・情報モラル教育、交通安全教育、人権教育の推進	・身だしなみ自己点検と全体指導を通して、主体性を高めながら規範意識を向上させる。各中学校のブレザー導入を踏まえ、本校としての対応案や規定を検討する。 ・SNSの正しい利用方法を身に付け、交通安全に対する意識を向上させるとともに、人権に配慮した日常生活が送れるよう、各種講話等を通じてはたらきかける。
進路指導 (進路指導部)	就職指導業務のデジタル化 年間を通じた進路指導の充実 多様な生徒に対する、進路支援体制の整備	・求人票管理サービスの活用 ・進路を意識させる指導の充実 ・多様な進路希望に対する個別のサポート体制の確立	・ハンディ株式会社が提供する求人管理サービス「ハンディ進路指導室」を導入することで、近年膨大化しつつある求人票の受付業務を省力化する。加えて就職希望生徒の求人票閲覧を円滑化する。 ・総合的な探究の時間において、外部機関との連携を含め、キャリア教育に関する内容を増加させる。 ・各教員と連携し複数による指導を行い、特に4年生担任とは常に情報を共有できる体制を構築する。また各生徒の進路希望に応じた有用な情報の収集・提供をすると共に特別な配慮を必要とする生徒の進路決定を促す。

生徒会活動 (生徒会)	新行事の強化、増強 行事の見直し、改善	・ アンケートの活用 ・ 生徒会役員との意見交換	・ 昨年度実施した教員と生徒からのアンケートをもとに、行事の改善、向上に努める。特に生徒からの意見を少しでも反映することができるように行事前執行部会の充実に努める。 ・ 前後期の生徒会役員と各行事の必要性や改善点を話し合い、学校全体で楽しめる行事の選定を実施する。
保健教育 (保健部)	健康的な生活習慣の促進 教育相談における連携の強化	・ 健康的な生活習慣の促進 ・ 教育相談におけるさらなる連携強化 ・ 学校環境の適切な維持及び改善	・ 持続的な保健指導を通して、生徒の健康的な生活習慣の促進に努める。生徒が主体性・自主性をもって健康的な生活習慣について考えられるようにすること、自分の困りごとなどを「相談する力」を育成することを目標としたい。 ・ 生徒・保護者が教育相談を必要とする際に、安心して効果的なサポートが受けられるように、教育相談における連携をさらに強化してメンタル面のサポート体制を整える。そのために、教員同士の情報交換、各関係機関やＳＣなどの助言を活かす工夫を行う。 ・ 生徒の環境衛生に関する意識を高めるために、生徒保健委員会や生徒美化委員会を活用する。各委員会の月１回の実施や年５回の清掃活動の実施を行い、日頃から学校環境衛生活動に尽力できるように創意工夫を行う。
食育指導 (給食部)	喫食率の向上 給食マナーの定	・ 喫食率の向上 ・ 給食マナー等の定着	・ 来年度も引き続き、定時制昇降口に当日分と次回分のメニューを記載したボードを掲示したり、特別メニュー時などはＳＴで連絡したりして、給食への興味関心を高めさせて喫食に繋げる。 ・ リクエスト給食を実施し、Ｒ６年度よりも高い喫食率を目指す。 ・ 手洗いやハンカチ持参の指導を徹底する。また、給食室利用時のルールを忘れていた生徒もいるため、個別だけでなく全体にも声をかけて指導し、生徒のマナー意識を高めさせ、定着を図る。
教育ＩＣＴ (ネットワーク情報)	教育ＩＣＴ環境の整備と、適正な利用方法の習得	・ 生徒用タブレット端末の保守点検の適正化 ・ 外部へ向けた情報発信の継続	・ 年度当初に、ネットワーク情報部から教員に対し生徒用タブレット端末の取り扱いについて周知する。教員から生徒に対し正しい取り扱いについて理解させ、適切に役割分担をさせ、正しい取り扱いを身に付けさせる。Ｒ８年度以降のＣＹ０Ｄに向けた準備を行う。 ・ Ｒ６年度と同様に、必要な情報提供を行い、各種行事をはじめとした情報発信を依頼する。生徒会だけでなく、他の分掌からも情報提供がなされるよう促す。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋がれるよう、ＩＣＴ機器の有効活用や教科指導法の研修・研鑽を通じた授業の実践に努める。 ②学校いじめ・不登校対策基本方針に則り、年間計画の遂行と迅速かつ適切な早期対応を行い、生徒たちの心身の健康に対するサポート体制を充実させる。 ③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。	

令和6年度学校評価

1 自己評価結果等

前年度の重点目標		①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋がられるよう、教科指導やICT機器の有効活用などの研修・研鑽を通じた授業の実践に努める。 ②生徒が自信を深められるように、個別支援や集団生活指導の環境の改善に努める。特に、教育相談委員会の活性化、専門家（SC・SSWなど）や外部機関との連携をさらに深め、個に応じた支援の工夫を図る。 ③生徒への適切な指導・支援を教職員が一体となって対応できるように、アクティブミーティングを積極的に導入する。	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習環境整備 (総務部)	防災・減災に関する計画と工夫 eメッセージの登録率の向上 式典内容の充実	・防災訓練の内容の充実 ・eメッセージの登録率の向上 ・歌唱指導	・防災訓練を2回実施し、5月の訓練で減災グッズについて話すことができ、生徒の防災・減災に対する意識は高めることができた。 ・入学式や保護者会などを通じてeメッセージの登録を呼びかけた。 ・今年度は4学年揃っての歌唱指導が卒業式予行前に2回実施できた。そのため卒業式本番でもしっかり歌うことができ式自体を良いものにできた。
学習指導 (教務部)	生徒の学びに対する興味・関心を向上させ、確かな学力を身につけさせる 成績処理を円滑に実施する 日本語学習への意識付け	・授業内容の定着 ・きめ細やかな指導の徹底 ・日本語学習支援	・昨年度に引き続き、成績不振者指導においては個別指導を重視し、かつ、定期考査前に個別に声掛けを行ったことで学習状況は概ね良好で追認考査に該当する生徒は1名であった。 ・校内実施の日本語教室への参加は1年を通じて多かった。また、JLPT受験も促し、受験者全員が合格することができた。
生活指導 (生徒指導部)	基本的な生活習慣の確立に向けた、主体的な取組 人としての在り方・生き方に関する学びの充実	・主体性を高められる生活指導の実践 ・情報モラル教育、人権教育、交通安全教育の推進	・身だしなみ自己点検と身だしなみ全体指導をそれぞれ3回行った。主体性を高めながら、規範意識の向上が図られた。 ・年度当初に、保護者に対して校則についての意見聴取を行った。得られた回答は多くはなかったものの、生徒と同様に保護者の理解が得られているようであった。 ・交通事故件数は7件と、R5年度の3件に比べ増加した。事故発生時に適切な対応が取れず、保護者とも連絡がつかない状況などから、教員が事故現場へ出向くケースが複数あった。生徒・保護者に対し事故発生時の具体的な対応について周知する必要がある。 ・情報モラル教育では映像教材を、交通安全教室・人権教室では外部講師による講話を行った。SNSの望ましい利用方法を身に付け、交通安全に対する意識を向上させることが今後も必要である。

進路指導 (進路指導部)	年間を通じた進路指導の充実 障がい者枠での就職希望者に対する、就業支援体制の整備	・進路を意識させる指導の充実 ・企業、公共職業安定所等との連携 ・多様な進路希望に対する個別指導の手立てとサポート体制の確立	・進路講演会における外部講師の講話を2人から4人に倍増させ、生徒の就職・進学に向けた意識をより高めることができた。来年度も継続していきたい。 ・各企業の採用担当者との情報交換会にて新規求人を獲得することで、進路選択に悩む生徒の応募先企業決定の一助とすることができた。 ・進路指導は例年通り就職指導中心に据えたが、専門学校への進学希望者に対しても個別の指導を行うことで、進路先を決めることができた。また特に学力試験を用いた大学への進学を目指す生徒についても模試の受験機会を提供するなど必要なサポートすることができた。
生徒会活動 (生徒会)	生徒会役員の資質向上 生徒会行事の充実	・生徒会役員会会の積極的な開催 ・生徒会行事内容の見直し・改善	・今年度からの新行事として安城七夕まつりゴミ拾いボランティア、ボウリング大会の2つの行事を新しく実施することができた。特に、ボウリング大会は生徒の満足度も高く、来年度以降も継続していきたい行事にすることができた。また、行事前後に執行委員会を開催し、より良い行事にするために生徒会も精力的に活動することができ、生徒へのアンケートから来年度以降の改善点も見えてきた。 ・新行事を2つ追加したことで主任業務の増加に繋がってしまった。スクラップ＆ビルドを来年度は掲げ、生徒にとって必要な行事や取り組みを精査していきたい。
保健指導 (保健部)	健康的な生活習慣の促進 教育相談における連携の強化 環境衛生の適切な維持及び改善	・健康的な生活習慣の促進 ・教育相談における連携の強化 ・環境衛生の適切な維持及び改善	・定期健康診断の結果、中等度肥満・高度肥満に該当した生徒に個別指導を行った。また、その中の希望者1名と100kg以上の生徒1名に対し、毎月体重を測定するなどの継続指導を行った。2名とも目標体重に到達することができなかったため、指導方法を工夫しながら来年度も指導していく。また、生徒保健委員会が作成する保健だよりを来年度も発行し、生徒たちの健康意識を向上させていきたい。 ・今年度は、特にSCと連携強化して教育相談を実施した。カウンセリングの必要のある生徒・保護者に対して、効果的にSCに繋ぐように努めた。また、情報共有の必要がある生徒について教育相談委員会を実施した。 ・各考査最終日に、生徒美化委員達が昇降口清掃または教室清掃を行った。生徒は、責任をもって清掃活動を行うことができた。環境衛生のための、この活動は定着したので、今後も継続していくこととする。
食育指導 (給食部)	喫食率の維持、向上	・献立の魅力発信	・特別メニュー時などはSTで連絡して喫食を促すとともに、今年度はリクエスト給食を実施した。事前アンケートの結果から、給食を「時々食べる」「ほとんど食べない」と回答した生徒の4割程度が「メニューによって食べるかどうか決

	食育の推進	・積極的な資料提供	めている」ことが分かった。リクエスト給食時にはメニューをＳＴで連絡したが、喫食率は１番高い日が 79%、１番低い日が 67%、平均 72%で、通常時とあまり変わらなかった。食材の高騰なども関係し、リクエストの多かったメニューがあまり反映されていなかったことが理由と考えられる。来年度もリクエスト給食が実施できるのであれば、メニューを栄養士と相談し、喫食率の向上を目指したい。 ・季節ごとに給食室の机上資料を入れ替え、旬の食材について紹介をした。食事をしながら読んでくれる生徒もあり、来年度以降も続けたい。
教育ＩＣＴ (ネットワーク情報)	個別最適化され、創造性を育む教育ＩＣＴ環境の整備構築	・生徒用タブレット端末の保守点検と利活用の促進 ・外部へ向けた情報発信の充実	・各学年・教科等で、生徒用タブレット端末が活用されている。端末は充電保管庫の設置場所の都合上、導入当初より職員室・保健室で管理している。管理はしやすいが、生徒からすると手間がかかるようである。持ち出し用にカゴを導入したが、１クラスあたりの台数が増えていることから、10 台でも重い。保管庫から教室まで運ぶ際の落下等が懸念される。 ・スクール・ポリシーや校則、いじめ防止基本方針、入試情報など、必要な情報提供がなされた。R5 年度と同様に、生徒会が主体となって部活動や学校行事などの情報発信が行われた。
総合評価	・授業内で生徒同士のグループワークを積極的に取り入れたことで、対話を中心とした授業を展開することができ、生徒が自己の考えを他者へ伝えるための表現力の育成につなげることができた。 ・多様な事情を抱える生徒が複数いるため、教職員間の情報共有を徹底し、きめ細かな指導を連携して行うことで生徒自らが改善に向けた行動ができたり、また外部機関との連携も含め個に応じた対応ができた。 ・学校生活の様子を積極的にＨＰアップすることで生徒の達成感を感じる機会を与え、また保護者、中学校、地域等にも情報発信できた。		

２ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	①スモールステップによるきめ細かい指導やＩＣＴ機器の有効活用を通して基礎学力の定着から発展的な学びに繋げ、またやり遂げていくことで自信を深めながら社会で通用する人間の育成に努めた。 ②学校いじめ・不登校対策基本方針に則り、年間計画の遂行と迅速かつ適切な早期対応を行い、生徒達の心身の健康に対するサポート体制を充実に努めた。 ③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努めた。
自己評価結果について	・スモールステップ、少人数指導、生徒タブレットの積極的活用などにより、ほぼ全生徒が意欲的に学習に取り組むことができた。 ・学校いじめ防止基本方針に基づき、年５回の面談週間や生活アンケート、ＳＣ面談の積極的活用などを通して、生徒の不安、悩み等へ教員が連携して丁寧に対応することができた。 ・特に考査中や長期休業中等、休暇取得を有効に活用して、ワークライフバランスに取り組むことができた。
今後の改善方策について	・外国にルーツをもつ生徒の増加、個別支援を要する生徒など、多様な生徒に対して、個別最適な学びの支援体制や環境整備にさらなる充実に努める。

	・生徒対応について、教職員が一体となり組織的に対応できるよう、職員間での情報共有の機会を積極的にもち、今後の指導や支援の方向性を決定していく。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	・アクティブラーニング、ＩＣＴ、生徒に印象深い授業、新しいことへの積極的な取組などを導入しながら、個別最適な学び、協働的な学びを通して、この多様な時代に生徒自らが自分の方向性を見つけられると良い。 ・非常勤職員のタブレットやモニター設置等、さらにＩＣＴ環境が整うと良い。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	全日制に同じ。